信州大学 SHINSHU UNIVERSITY | 教育学部 附属長野小学校

3年2組

ピッツェリア トラットリア ３年２組
～私たちが追い求めてきた本当のピザがここに～

ぼくたちが，私たちが，これ続けた，焼き続けた日々が，本当のピザなんだ
これは，先日行われた音楽会で歌われた，３年２組の子どもたちが作詞した曲の最後のフレーズです。本当のピザが今ここに，子どもたちの中に確かにある・・・

歌うことで表現された私たちの歩んだ日々

音楽会に向け，曲作りが始まりました。子どもたちは，自分たちが一年間かけて歩んできた日々を，歌詞の中にこめようと試みていました。休校期間が明けて，ピザに載せる野菜を育てるために畑にイタリアントマトなどを植えたこと。たくさんのピザを短い時間で焼くために，窯を新たに２つ増やしたこと。本当のピザを極めていく中で，自分たちの中でたどり着いた答えなどを歌詞にこめていました。

音楽会当日は,保護者の方が見守る中，自分たちの歩みを音に載せて元気に伝えることができました。音楽会が終わると，「楽しかったあ。２組の本当のことたくさん伝えられた！」とノートに書き記す子どもたちの姿がたくさん見られました。

ピッツェリア トラットリア ３年２組へようこそ

信州大学附属長野小学校自然体験園に，子どもたちの念願であった「ピッツェリア トラットリア ３年２組」を校内の先生方限定でオープンすることができました。そこには，イタリアの港町のすてきなピッツァのお店がたしかにありました。

お店をオープンすると決めてから，子どもたちは話し合いを繰り返し，ピザを作る人，焼く人，窯の火を管理する人，お客様を案内する人，テーブルを整える人，ピザを運ぶ人など社会科で学習した一つのお店を支えるたくさんの人たちの学習を思い出しながら，一軒のピザ屋を営業するために必要なことをよく考え，意見を出していました。

そんな中，「ねえ！お店には音楽流れてるよね。みんなで演奏もしようよ」という意見が出て，音楽隊も結成することになりました。 最初のお客様の先生の姿が見えると，「先生来たよ。みんな！よーしやるぞ！」という声が上がりました。先生方の姿が見えたら，生地を伸ばし，トッピングし，窯へ入れるということを，子どもたちの中でとてもこだわっていたので，その言葉通り，できたての２組の本当のピザを，ウエイター役の子どもたちが座席まで届けていました。食べた先生から，「本当においしい！びっくりしたよ」「すごくトッピングがきれい，そういうところまで考えられているんだね」などとたくさんの言葉をいただきました。 音楽隊も音楽会で演奏した，イタリアの曲を２曲演奏していました。ヴァイオリンを持ってきたお子さんもいて，リコーダーや鍵盤ハーモニカの音と重なり合い，おいしいピザの香りと共にすてきな音色でいっぱいになっていました。

２組の自慢のピザ窯にありがとう

みんなで決めていたこと「窯を片付ける」こと。本当のピザの答えをそれぞれが出すことができたからこそ，ピザづくりの学習に，自分たちの手で区切りをつける。ピザ窯を残したいという子どもたちもいて，みんなで，何日も話し合い，考え合い,たくさんの涙が流れた日もありました。最後は，共に歩んできた仲間の言葉が全員の背中を押してくれました。「ピザ窯にありがとうの気持ちをもって片付けよう」と決心しました。一つ一つのレンガを持ち上げる，子どもたちの表情には，寂しさはもちろんありましたが，作業を続ける中でその表情は，何かたくましいものへと変化していったことを感じました。すべてのレンガを片付け，ピザ窯があった場所に一人の子どもが手をあて，地面を見つめていました。自然と何人かの子どもたちが集まり、やはり黙って地面に手をあてる姿が見られました。言葉を交わすわけでもなく，それぞれがピザ窯に「ありがとう」を届けているようでした。この2組の仲間がこれからもいるからこそ，子どもたちは一歩前に進めるのだろうと感じました。